

ユタ短期留学を終えて

札幌校 基礎学習開発専攻 2年 鈴木健人

プログラムの授業は先生がネイティブの方だったので、全て英語で行われました。そして授業中の会話もすべて英語できるように指導されました。ただみんな日本語で話していましたが。

初日の授業はとても面白かったです。美術館に行き、絵を見て一番いいと思ったのはどの絵か、そしてその理由を英語で説明するというものでした。私はつたない英語で一生懸命説明したのを覚えています。ほかにも印象的だったのが、英語でアメリカと日本の違いを発表し、他の学生がそれについて一つずつ質問をするというものでした。ほかの人と質問がかぶらないように注意して聞きながら、質問の内容を考えるのは大変でした。私はその違いは、学生たちのフレンドリーさだと感じたのでそれを発表しました。ほかにはシャワーしか使えない、道がわかりにくいなどの意見がありました。

またさらに面白い授業が、海外のドッキリ映像を見てそれを英語で説明するというものでした。ドッキリ映像は、お店でボーイが鳥の糞が入ってしまった料理を取り替える際に、仕掛け人の盲目の人に渡して食べさせるところを見せる、というものや鹿の糞に扮したチョコを仕掛け人が食べる場所を見せる、というものなどがありました。それらを英語で説明するのはとても勉強になりました。そして中でもプレゼンテーションが一番よい経験になりました。自分の「cultural identity」について調べ、それをパワーポイントでつくり、ほかのクラスで発表するというものです。ネイティブの人に英語でプレゼンをするのは、とても緊張したし自分のいうことが伝わるかどうか不安でしたが、面白がってくれたようで安心しました。



↑発表のためのパワーポイント

さらに外国人に混じってディスカッションを行う授業もありました。議題は男女の

性差別についてで、日本の現状について質問されました。私は男性のほうが女性より昇進されやすいなどと答えましたが、確かな根拠も無く自分の知識の無さを実感しました。英語で答えることが難しい以前に知識がなければどうしようもありません。日頃からいろいろなことに関心を持つべきだと思いました。

また日本人同士でのディスカッションも印象的でした。カレッジスポーツについての議論でしたが、私は反論したいことがたくさんあり発言権を得たのに、英語でうまく言えずとても悔しい思いをしました。

学んだことは、洋学を聴くことはリスニングの勉強にすごくよいということです。私は初め先生の話す英語、ホストファミリーが話す英語がまったく聞き取れませんでした。しかし洋楽を聴き、歌う練習をするようになってから、英語に耳が慣れてきたようで、少しずつ理解できるようになり、成長できていると感じることができました。また現地の友達を作るのはとても重要だと感じました。現地の友達ができてからいろん



なところにつれていってもらったり、一緒に食事をしたり英語に触れる機会が増えたからです。また、同じぐらいの年ということもあり、笑いのつぼや関心のあることが共通しており、もっと会話したい、という気持ちが強くなりました。その反面、なにをいっているのかわからないこともありとても悔しかったのを覚えています。ですが友達は私がわからないようだとすぐにゆっくりと英語を話してくれたり、繰り返し説明してくれました。また誕生日が近いと知るとサプライズでケーキを買ってきてくれました。とてもうれしかったです。帰国日前日には夜遅くまで、ゲームをしたりデニースで食事をしたりして過ごし最後は別れを惜しんでくれました。別れるのが本当につらかったです。



←韓国人の友達が
サプライズでお祝
いしてくれまし
た！

留学をするに当たって私がおすすめしておくのは、日本についての知識をしっかりと持っておくことです。たとえば、日



本の一番高い山は何か、それは何メートルか、また、日本の歴史、いつオリンピックが行われたのかなどを聞かれました。答えられなくて悔しかったです。また自分は日本人、という「私ワンピースを知っている」とほぼ必ずいわれます。私はワンピースについてほとんど知らなかった

たので、話を広げることができず悔しい思いをしました。人気のあるアニメや漫画はおさえておくべきだと感じました。

また食生活についてですが、予想以上に心配する必要はありませんでした。確かに、ファーストフード店などのドリンクは量が桁違いですが、バーガーに関しては日本とほとんど大きさは変わらず、味もそんなに濃いというわけではありませんでした。チョコレートは中にキャラメルクリームが入っているものが多く、それらはとても甘かったです。ホストファミリーの夕食もいたってシンプルで、タコスだったり、チキンライスだったり日本と変わらないものでした。お米が普通に食べられていたのは驚きでした。量も多いかと思いきや、みんなで分けるのでむしろ少ないぐらいでした。メインストリートには日本食のビュッフェもあり、日本食が食べたくなるとそこへいきました。朝ごはんは毎日シリアルでした。

昼ごはんは自分でサンドイッチを作っていました！



←朝ごはんはシリアルです！

ホストマザーが朝早く家を出るため、昼ごはんは自分でハムとチーズをはさんだサンドイッチを作って持っていきました。学校の食堂にはビュッフェ、すし、ピザなどが売っており、食べるものは困りませんでした。

毎週土曜日にはエクスカージョンとして、国立公園に行ったり買い物に行ったりしました。アメリカの景色はとてもきれいです。体育館も開放されており、バスケット

ボールや卓球をして気分転換をしました。ジムも設置されており、5ドルで使えるとのことでした。ランニングマシンにのりながらテスト勉強をしている人がいたのが衝撃でした。

シーダーシティはとても平和な町でした。家に鍵はかけず、車にもかけません。人とすれ違うときは笑みを浮かべたり、挨拶をしたりします。とても朗らかなひとたちでした。特徴といえば、キリスト教の一派であるモルモン教が盛んだということです。



いたるところに教会があり、毎週日曜日には家族そろって礼拝にいきます。初めていったときは何を話しているかもわからず、パンと水を差し出されどうしてよいかわからず困りましたが、式が終わると向こうの人から手を差し伸べて挨拶をしてくれ安心しました。モルモン教はさまざまな人に親切にするという教えがあり、それを多くの人が信仰しているということが、シーダーシティの平和につながっているのだと思いました。また毎週一回、ゲーム

や立食パーティをする機会があり、私も参加しました。みんな快く歓迎してくださり、そこで友達の輪も広げることができました。

そして海外留学というものは、英語を学ぶだけではなく人間の価値観や考え方、自分を知るいい機会になると感じました。たとえば、自分は恥ずかしがりやで人見知りなところがありました。しかし見知らぬアメリカの土地で、言葉も通じないところで人見知りのままであったら、知り合いも友達も増えずせつかくの留学を無駄にしてしまうと思いました。だから私は思い切って話しかけるようにし、その結果として多くの友達をつくることができました。また、授業中でも英語を話す練習になると思い積極的に発言するようところがけました。そういう面でも留学は自分が成長するきっかけ

になるのではないかと思います。よって私は自信がなくとも一回留学してみようことを強くすすめます。



教育大の仲間と！
一ヶ月間ありがとうございました